

## 学位論文内容の要旨

学位申請者	谷内 美智子【論文博士】 【国際日本学専攻 平成13年度生】 (平成20年3月31日 単位修得退学)	要 旨
論文題目	日本語学習者の統語的複合動詞の意味推測における文脈量、日本語習熟度、後項動詞の種類の影響	<p>本研究ではモンゴル語を母語とする学習者を対象に、意味推測時の文脈量、日本語習熟度、後項動詞の種類の一つの要因が統語的複合動詞の意味推測にどのような影響を与えるかを検討した。研究1と研究3では多枝選択式、記述式での意味推測の正確さを検討した。研究2と研究4では多枝選択式、記述式での意味推測の特徴を検討した。</p> <p>その結果、以下の点が明らかになった。第一に、複合動詞の正確な意味推測には、後項動詞が既習語かどうか、字義通りの意味を保持しているかどうかによって変化することである。第二に、文脈からの情報は語の意味推測には不可欠で、最低でも単文以上の文脈が必要であることである。第三に、意味推測の正確さは日本語習熟度によって高まるが、推測される意味の傾向は日本語習熟度の高低では大きく変わらないことである。第四に、統語的複合動詞の意味推測では学習者は「前項動詞の意味＋後項動詞の意味」などのストラテジーを用いて意味を推測している可能性があることから、学習者に前項動詞と後項動詞の両方を意識すること、そして単独動詞と複合動詞の意味の違いを明確に示すことが有効であるということである。</p> <p>以上の点は我々の直感に合致するものであるが、それらについてデータを用い実証的に明らかにした点が本研究の最大の意義であり、複合動詞の習得研究、語の意味推測研究において有用な知見を提供できたと考えられる。</p>
審査委員	(主査) 教授 森山 新	
	教授 佐々木 泰子	
	准教授 西川 朋美	
	准教授 伊藤 さとみ	
	講師 菅生 早千江	